

豊総だより

令和5年3月13日
第10号
兵庫県立
豊岡総合高等学校
学校便り



祝 卒業

高め合える存在がいることで
頑張る力もわき、一人ではない
という安心感も生まれました。
全員で支え合える仲間に出会え
たことに感謝しています。
(卒業生答辞より)

令和4年度

卒業証書授与式挙行

2/28

卒業証書授与



18期生 182名



担任による呼名



卒業生入場

卒業生代表

浅田 暉明



学校長式辞

(抜粋) 山本 宏治校長

卒業する皆さんに、未来へ確実に伝えてほしいことがあります。それは、「生きていることは素晴らしい」というメッセージです。生きることは、心を燃やすこと。私の心を燃やしてくれるこの道をすすむのだ、という決意を持って、未来への一步を踏み出してください。若さを浪費しないで。学びを節約しないで。あなたの心に火を点けてくれる一本の道を、勇気を持って歩み続けましょう。私たちは互いの信頼関係の中に、人としての質的な豊かさを求め、喜びや、悲しみを共有しながら、課題を克服して生きています。生きる喜びを感謝の言葉で表しましょう。そのことによって才能と努力が大きく花開きます。あなたは大切な人、という、人間本来の「こころ」で未来を切り拓いてほしいと、強く願っています。
豊岡実業高校、豊岡南高校、そして豊岡総合高校の卒業生は皆さんを含め30,283名。創立以来「二十歳」を迎えた豊総は、今後も「ここに豊総あり！」という存在感を社会に伝え続けるため

全力を尽くします。これからも豊総の応援団となって、ぜひとも未来の母校にも力を貸してください。

来賓祝辞

代表して、PTA会長
中地 徹様よりご挨拶
をいただきました。

在校生送辞

(抜粋) 在校生代表
生徒会長 仲才 大鷲

コロナ禍によるたくさんの困難な状況の中で、自分の道を自分で確立し、進路を決定されることは想像以上に大変な道のりだったと思います。しかし、それでも、先の見えない未来を見据え、決してあきらめず、努力を惜しまない先輩方の姿は、私たちが在校生の模範であり、誇りであり、いつしか越えなければならぬ憧れの存在となりました。

特に、先輩方の大きな背中を感じたのは、部活動です。三年間の努力を発揮する場である最後の大会は、無観客での開催となりました。そんな中でも私たち後輩に対して、いつも優しく、丁寧に真剣に指導してくださいました。先輩方は、部活動でも「笑顔」を絶やさず、私たちに何事にも楽しんで取り組むということの大切さを教えてくださいました。今の私たちがあがるのも先輩方と過ごした日々があったからです。本当に感謝してもしきれません。

卒業生答辞

卒業生代表

水嶋 楓花

(裏面に全文を掲載しております)



保護者、職員の拍手に見送られて

式後、最後のホームルーム



卒業おめでとう
ごいませう



画竜点睛



卒業生 答辞

寒さの厳しかった但馬の冬もようやく終わりをづけ、温かな心地よい風を頬に感じる今日このよき日、私たち十八期生百八十二名は、多くの思い出が詰まった豊絵を後に、新たな一步を踏み出そうとしています。

三年前の四月、慣れない手つきでネクタイを結び、新しい制服に身を包んで大きな期待と不安を胸に入学式を迎えたことが昨日のように思い出されます。新しいクラスメイト、専門用語の飛び交う授業、自分でつくる時間割、全てが初めての経験でした。

一年生。入学してすぐ、新型コロナウイルスの影響により二か月間の休校となりました。想像もしなかった状況に、戸惑いと不安の日々でしたが、六月から登校することができるようになりました。本格的に高校生活が始まってからは目まぐるしく時間が過ぎて行き、秋には文化祭と体育祭が実施されました。コロナ禍で制限されることもあり、例年通りの実施とはいきませんでした。屋台やたくさんイベントなど、高校生ならではの出し物がとても印象に残っています。この一年生の時の文化祭が、私たち十八期生にとっては最初で最後の文化祭となりました。残念な気持ちもありますが、それよりも、クラスの仲間と協力してクラスの出し物を成功させ、団結力が高まったことに、深く感動したことを覚えていきます。

二年生になり、それぞれの進路に応じて科目選択の幅が広がりました。進路実現を目指して自分に合った時間割を作

成できる豊絵ならではの良さを実感しつつ、改めて豊絵に来てよかったと感じました。部活動では夏以降、自分たちが中心となってチームを引っ張る存在となりました。私は女子バレー部に所属していました。コロナ禍により、活動停止や試合中止などに何度も直面し、どうしようもない現実には、何もできない自分への歯がゆさと焦りを感じました。しかし、時間が経つにつれ、制限された中でしたが少しづつ練習ができるようになり、今まで以上に日々の取り組みやメンバーとの時間を大切に過ごしていこうと強く思うようになりました。同じ目標に向かって、一緒に汗や涙を流し励まし合いながら切磋琢磨できた仲間と出会えたことは、私の一生の宝物です。

そして、高校生活最後の三年生。一番の思い出は、何度も延期になり諦めかけていた修学旅行です。沖繩に行くことはできませんでしたが、先生方がいろいろと考えてくださり実現できたことにとっても感謝しています。CSOはあいにくの雨模様でしたが、友達と一緒にいけば天気などは関係なく、楽しい時間はあっという間に過ぎて行きました。琵琶湖でのミシガンクルーズでは、サブライズ花火を打ち上げていただきました。十八期生はクルーズ船に乗ることが多くありましたが、夜の湖面に映る花火は格別でした。京都での班別行動は、それぞれの班で計画し自由時間を満喫しました。バスに乗ることが多く迷うこともありましたが、そういったハプニングも楽しく、お寺を巡ったり、おいしいご飯を食べたりしました。あつという間の三日間で、友達と写真を撮ったり話したりと楽し

い思い出であふれていました。

そしていよいよ私たちの前に現れたのは進路実現への壁でした。成績やテストで伸び悩んだり、自分の思い通りにならず不安や焦りに追われることもありましたが、それでも、苦手科目に打ち込んだり、面接練習を何度も繰り返ししたり、プレッシャーと戦いながらもそれぞれの目標に向かって全力で取り組みました。その中で一番の支えとなったのは友達との存在でした。休み時間になると単語帳を広げる人、面接ノートを書く人など、一人一人の取り組みが、進路に向けた緊張感のある雰囲気をつくっていききました。高め合える存在がいることで頑張る力もわき、一人ではないという安心感も生まれました。全員で支え合える仲間に出会えたことに感謝しています。

また、校長先生、十八期生学年団をはじめ職員の皆様、三年間あたたかくご指導してくださいました。勉強面では、分るまで丁寧に教えてくださり、集中して勉強に打ち込むことができました。進路に関する様々な相談にも乗っていただき、不安な中でも心強い支えとなりました。校長先生は毎日校門であいさつをしてくださり朝から元気が出ました。部活動では、技術面だけではなく社会に出ていく上での礼儀や忍耐力など精神的な面も指導していただき、一人の人間として成長することができました。先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

これから豊岡総合高校を担っていく在校生の皆さん、これまで私たち十八期生を慕い、支えてくれてありがとうございます。これからはこの学校の中心とな

り、良い伝統を受け継ぎつつ、新たなことにもたくさん挑戦してください。仲間と協力し、切磋琢磨しながら充実した高校生活を送ってください。皆さんの活躍が、私たちの耳に届くことを楽しみにしています。

そして、十八年間一番近くで支え、見守ってくれた家族。どんな時でも私たちを応援してくれました。時には素直になれずに強くなったりしてしまったりもありました。でも家族の愛情があったからこそ、今日卒業式を迎えることができています。大切に育ててくれて本当にありがとうございます。これからも迷惑をかけることがあると思いますが、今度は私たちが支えられる存在になれるように努力していきます。

最後になりましたが、コロナ禍にも関わらずこのような盛大な卒業式を挙行していただき、十八期生一同、心より感謝申し上げます。今後の豊岡総合高等学校のますますのご発展を心より祈念して、答辞とさせていただきます。

